

# 下野市立国分寺小学校

## 1 学校課題

自分の考えをもち、広げ深める児童の育成（第3年次）  
学び合いを支えるコミュニケーション能力の育成  
～算数科を中心に～



## 2 研究計画

### (1) 基礎研究

- ・算数科の学習指導要領におけるねらい及び内容等の再確認。
- ・コミュニケーション能力育成に関する先行研究の分析や共通理解。
- ・本校の昨年度までの研究実践の成果の確認・整理。

### (2) 授業交流会（校内授業研究）

- ・算数科の研究を主とし、教科を絞ることで成果や課題をつなげる授業研究。
- ・S&Uコラボ事業として宇都宮大学の教授、市教育委員会指導主事に指導・助言を受けながらの研究。
- ・少人数グループにおいて、原則全員1回公開の授業。

### (3) 関連研究

- ・1年生からの算数科の技能を確認する“MACS”による実態把握や、授業時間外での個人に対応する補充型学習の設定（パワーアップタイム）
- ・国分寺中学校区の小中一貫教育による授業研究会。

## 3 研究内容

### (1) 学び合いを支えるコミュニケーション能力を育成する指導の工夫

「自分の考えをもち、広げ深める児童の育成」という学校課題の第3年次である。1年次に「自分の考えをもち」2年次に「広げ深める（学び合う）」について重点を置き研究した。児童が学び合い高め合う力を伸ばすためには、児童のコミュニケーション能力の育成が重要あるとの認識から、第3年次の重点課題として、授業研究会や研修会を行った。宇都宮大学と連携したS&Uコラボ授業や、下野市教委の要請訪問など、充実した研修ができた。

### (2) 教員相互の学び合い

児童が考えをもった状態や広げ深めた状態、学び合っている状態、高め合っている状態を教員が見取る目を養うこと。また、児童の意見を受け、他の児童につなげ広げるファシリテーターとしての役割を効果的に果たすことなど、教員相互の学び合いを重視した。公開授業の検討会でも、観察した児童の変容や、教師の言葉かけなどについて、話し合うようにした。

コミュニケーション能力に関しては、学校課題研修のスタートして、「国小っ子に育てたいコミュニケーション能力とは」のテーマで職員研修を行った。ラウンドスタディ形式で、教員同士が積極的に自分の意見を出し合い、「コミュニケーション能力」を身に付けた子どもの具体的な姿を伝え合うことができた。



また、少人数グループによる授業交流を行い、異学年担任、教員経験年数の異なる3人ずつによるグループごとの授業研究を行った。授業案検討や授業参観後の検討会を通し、学び合いを支えるコミュニケーション能力の育成についての具体的な手立てや、教師のつなぐ役割の重要性を考えることができた。

### (3) 児童の学習活動の充実

児童の実態を把握した上で、効果的な朝の学習や補充的学習の実施、MACSによる算数の基礎定着を図った。また、国分寺中学校区の小中一貫教育の日に各校で授業公開した。

## 研究の足跡

No	月日(曜日)	種別	学年	教科	題材名	外部講師
1	6/12(水)	研修会	全体		「国小っ子に育てたいコミュニケーション能力とは!？」	校内研修
2	8/1(木)	研修会	全体	外国語	「外国語活動」	稲葉 亜希恵先生 (下野市教委)
3	10/23(水)	学校課題 (S&U)	2年	算数	「かけ算」	日野 圭子先生 (宇都宮大学)
4	11/15(金)	学校課題 (S&U)	3年	道徳	「ぼかぼか言葉」 (親切・思いやり)	和井内 良樹先生 (宇都宮大学) 土田 礼巳先生 (下野市教委)
5	12/17(月)	学校課題 (S&U)	4年	算数	「立体」	日野 圭子先生 (宇都宮大学)
6	1/8(水)	研修会	全体		今年度のまとめ	校内研修

※ さらに、少人数グループA～Iでの授業公開と検討会が随時行われた。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 学び合いを支えるコミュニケーション能力を育成する指導の工夫について

S&Uコラボ事業として宇都宮大学の教授、市教育委員会指導主事に指導・助言を受けながら、学んだことを授業に継続的に生かしていくことを意識して研究することができた。特に算数科では、「児童が迷い、揺さぶられる場面があつてこそ、自ら考えたい、伝えたいと意欲をもつことができる。その時が学び合うチャンスである。」といった指導をいただき、授業を組み立てる観点を見付けることができた。以降の授業研究会でも、児童の意見に教師がどのように対応するかで、児童が学び合う場面を作るきっかけになるといった視点が生まれ、授業の中での教師のファシリテーターとしての重要な役割について再認識した。また、児童が安心して意見を出せる普段の学級経営が大切であることも、学びを高め合うために必要であることも確認できた。

しかし、「発表し合っていることが深め合っているのではないのでは・・・」といった、学び合いの本質についての疑問も生じた。発達段階も含めて、児童が学び合うことの具体的な姿についても研究していきたい。また、児童の意見をつなぎ深めることができる支援の仕方を研究していくことも課題である。



### (2) 教員相互の学び合いについて

今年度は、少人数グループでの授業交流会を行ったことで、教師相互の学び合いが活発化した。異学年担任、経験年数の異なる教員のグループであったが、3人という適度な人数構成から、自由で活動しやすいといった意見が多かった。また、教師側が低・中・高学年の縦の発達段階に応じたコミュニケーション能力の理解ができたことや、それを踏まえて目標の設定ができたことなど、グループでの研修の成果を感じることができた。

また、グループ交流を通して、教材研究や児童の見取り、普段悩んでいること等、全体研修では伝えられない内容も気軽に話すことができる機会をもてたことが有効であった。

### (3) 児童の学習活動の充実について

1・2年次に引き続き、学習に困難を感じていて個別学習を希望する児童を、朝の学習時に集めて学習するパワーアップタイムを行い、該当児童の学力の定着を図ることができた。また、MACSによる算数の基礎学習の定着を計って、児童の実態把握を行い、指導に役立てることができた。国分寺中学校区の小中一貫の日における公開授業により、授業研究会では、他校の先生方の意見を聞く機会を得て、指導に生かすことができた。